

2008年度 大学入試を振り返る

2008年度入試は受験人口の大幅減に加え、国公立大では旧帝大を中心に後期日程廃止・縮小の動きが活発化、私立大では影響力の大きい都市部の難関大で「学部の新設・改組」「センター利用方式の拡大」が目立ち、志願者変動要因の多い年であったといえる。

この度、各大学から今春入試の最終的な入試結果資料を送付いただいた。個々の状況については26ページ以降にまとめてあるので是非ご活用いただきたい。また、全国の高等学校の先生方のご協力をいただき約160万件の貴重な入試結果調査（可否）データを集めることができた。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2008年度入試を総括したい。

国公立大学編

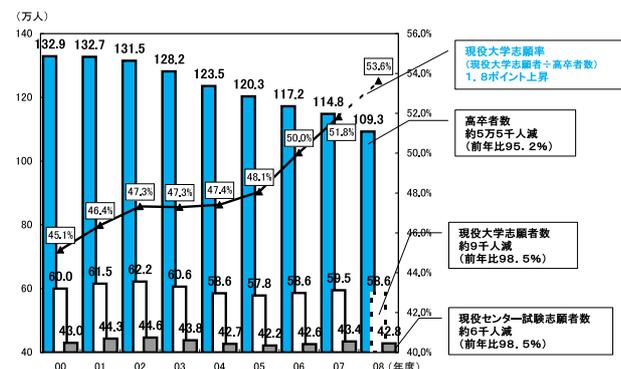
はじめに今春入試の受験環境について振り返っておきたい。

【グラフ1】のとおり、この春の高卒者数は約5万5千人減少の約109万3千人（前年比95.2%）となる見込みである。減少数は00年度以降では最多で、大学志願者数の大幅減も予想されていた。しかし、後述するが国公立大の志願者数はほぼ前年の数を維持しており、私立大の延べ志願者数も前年を上回る結果となっている。

この要因の1つは現役生の大学志願率の上昇である。大学志願率は女子の4年制大志向の高まりとともに上昇を続け、2006年度に初めて5割を超えた。河合塾では今年も1.8ポイント程度の大学志願率の上昇を予測しており、現役大学志願者数は前年から約9千人減（前年比98.5%）程度に留まると推測する。

一方、既卒生についても極端な減少は見られなかった。2008年度のセンター試験の既卒志願者数は約4千人減の108,666人（前年比96.4%）で、1浪生に限れば約2千6百人減の74,964人（前年比96.6%）であった。前年の現役大学志願者数から現役大学入学者数を引いた数（＝入学できなかった者の数）が約8%減少していたことを考えると、こちらもその減少率は小幅であったと見てよい。その一因と考えられるのが、近年一定層を形成している「合格浪人」の存在である。「合格浪人」とは、大学へ入学したものの、改めて別の大学

【グラフ1】 高卒者数・現役大学志願者数の推移



※高卒者数・現役大学志願者数は学校基本調査より（08年度は河合塾推定）

や学部の受験を志す者である。「第一志望校を諦めきれず再度チャレンジする者」「入学大学や所属学部が肌に合わず別の大学を志望する者」など理由はさまざまであるが、河合塾の塾生でも近年その数は増加しており、今春入試においても相当数の「合格浪人」が存在していたと思われる。

後期は合格者数の絞り込みも目立ち倍率上昇

さて、国公立大入試の状況であるが、既に本誌4・5月号で志願状況の分析結果をレポートした。改めてポイントを整理すると、以下の4つが挙げられる。

- ①国公立大学志願者数は前年比99.8%、微減に留まる
- ②センター試験平均点の上昇も後押し、旧帝大を中心とした難関大では志願者増目立つ
- ③旧帝大・医学科で後期日程廃止・縮小が拡大し、周辺大で志願者層の変化が生じる
- ④学部系統別では社会科学系・工学系が人気

【表2】は今回判明した合格者数を含む概況である。国公立大志願者の総数は487,780人で、前期で499人減（前年比99.8%）、後期は1,885人減（前年比99.1%）と僅かな減少に留まった。センター試験の平均点が全体的に高かったことも受験生の出願を後押ししたと考える。

合格者数は前期日程で募集人員が僅かに増加したものの、91,069人から90,747人（前年比99.6%）へ逆に減少した。倍率（志願者数/合格者数）は2.78倍で昨年と変化はない。

一方、後期日程では合格者数は27,821人から25,996人（同93.4%）と大きく減少した。志願者はほぼ前年並みを維持しているため倍率は7.56倍から8.02倍と0.46ポイントのアップとなった。

後期合格者数の減少は、後期廃止の影響を受け募集人員が988人減少（前年比95.5%）したことに加え、前年と比べて合格者数を抑えた大学が多かったこともある。「前期合格者の歩留率が高かった」「前年の後期日程の歩留率が高かった」など理由は大学により状況が異なるが、大学全体の合格者数が前年から半減した大学もあった。

なお、国立大では今春入学者が学部単位で定員の1.3倍を超えた場合、超過学生分の授業料を国庫に返還することとな

【表2】 国公立大入試結果 全体概況

	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)		
	07	08	07	08	前年比	07	08	前年比	07	08	
国立	前期	63,586	63,590	197,890	197,168	99.6%	72,912	72,754	99.8%	2.71	2.71
	後期	18,301	17,379	171,078	168,957	98.8%	22,822	21,134	92.6%	7.50	7.99
	全体	81,887	80,969	368,968	366,125	99.2%	95,734	93,888	98.1%	3.85	3.90
公立	前期	13,435	13,598	55,286	55,509	100.4%	18,157	17,993	99.1%	3.04	3.09
	中期	1,988	1,939	25,040	26,680	106.5%	4,845	4,645	95.9%	5.17	5.74
	後期	3,442	3,376	39,230	39,466	100.6%	4,999	4,862	97.3%	7.85	8.12
	全体	18,865	18,913	119,556	121,655	101.8%	28,001	27,500	98.2%	4.27	4.42
国公立	前期	77,021	77,188	253,176	252,677	99.8%	91,069	90,747	99.6%	2.78	2.78
	中期	1,988	1,939	25,040	26,680	106.5%	4,845	4,645	95.9%	5.17	5.74
	後期	21,743	20,755	210,308	208,423	99.1%	27,821	25,996	93.4%	7.56	8.02
	全体	100,752	99,882	488,524	487,780	99.8%	123,735	121,388	98.1%	3.95	4.02

※数値は河合塾調べ

っていた。入学人数が定員の1.3倍を超えるような該当学部は多くないため影響は小さかったと思われるが、2009年度では1.2倍、2010年度以降では1.1倍と今後は基準が厳しくなっていくことが決まっており、次年度以降はさらなる合格者数の絞り込みも予想される。

さて、今春入試の特徴の1つにポイント②のとおり、難関大の堅調な人気が挙げられる。

【グラフ3】は国公立大の前期志願者数について、グループ・地区別に10年間の推移をまとめたものである。

近年の国公立大の志願者減少は、少子化に加え2004年度のセンター試験7科目化の影響も大きかった。03年度をピークに04・05年度で大きく志願者を減少させている地区が多い。特に今春入試で志願者の減少が目立ったのは中・四国地区で、難関12大に含む広島大を除くと地区全体の志願者数は前年比89.4%、実質倍率(受験者数/合格者数)は2.44倍→2.21倍と低下した。実質倍率が1倍台の募集区分数は83→107となり全体の4割超を占めた。

一方、旧帝大を中心とした難関12大と医学科については年により増減があるものの、今春の志願者数はグラフ左端の1999年度を上回っており安定した人気を維持していることが分かる。特に前期志願者数が12年ぶりに1万人を超えた**東京大**は、他地区出身の受験者数の増加が目立っており、人気の上昇が強く感じられた。地方都市での大学説明会の開催や保護者の年収が400万円以下の学生の授業料全額免除など、東大独自の改革も呼び水となっている感があり、東大熱は当分継続しそうな気配である。

東大後期縮小で一橋大・東工大・大阪大の併願者増

今春入試では昨年の**京都大**に続き、**東京大**でも後期日程を縮小し募集人員を前年までの約3分の1とした。また**東北大**や**名古屋大**は後期廃止学部を拡大し、名古屋大では後期日程は全廃となった。

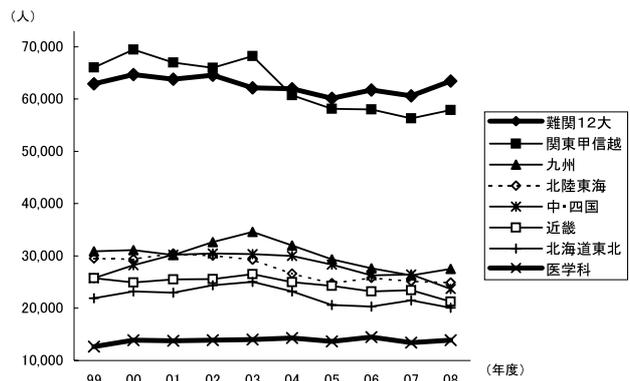
注目された**東京大**の後期入試であるが、志願者は約3分の2に減少したものの、予想通りハイレベルな入試となり、第1段階選抜の合格最低点は約9割の721/800点であった。この点数が次年度以降の後期志願者の目安となるであろう。なお、個別学力検査の総合科目は文理共通問題であるが、数学Ⅲの微分方程式の内容が出題された。内容は高校数学の知識を応用する力があれば乗り越えられるものであるが、微分方程式に関する初歩程度の知識があると有利な問題であった。

東京大前期志願者の後期併願先として併願者の増加が目立ったのが一橋大、東京工業大および大阪大である【表4】。

一橋大と**東京工業大**の後期日程は、**東京大**前期志願者が増加したものの、早くから難化が予想されていたため他大学へ志望を切り替える者も多かった。そのため大学全体の志願者数は微増に留まった。

また、実受験者数は両大学とも昨年より大きく減少した。一橋大は後期受験者数が723人から607人へ減少している。河

【グラフ3】 国公立大 グループ・地区別志願者数推移



※志願者数は前期日程のみ集計

※難関12大：旧帝大十一橋・東京工業・東京医科歯科・神戸・広島

※各地区の志願者数には難関12大と医学科は含まない

※医学科には難関12大の医学科は含まない

【表4】 東京大前期受験者の後期併願校の変化

●文科類

07年度		08年度	
後期併願大	人数	後期併願大	人数
1 東京大	942	1 未受験・不明	821
2 未受験・不明	565	2 東京大	532
3 一橋大	362	3 一橋大	485
4 東北大	82	4 大阪大	158
5 大阪大	63	5 東京外国語大	69
6 九州大	45	6 横浜国立大	59
7 東京外国語大	43	7 東北大	58

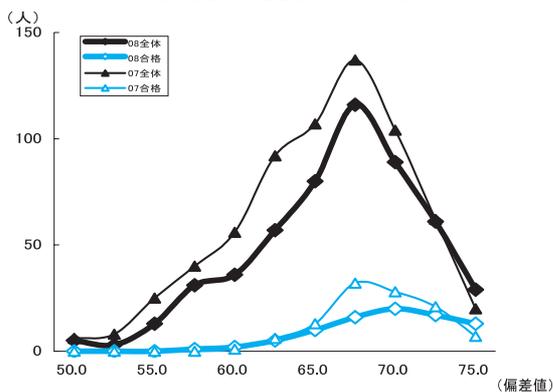
●理科類

07年度		08年度	
後期併願大	人数	後期併願大	人数
1 東京大	1055	1 未受験・不明	760
2 未受験・不明	603	2 東京大	721
3 東京工業大	258	3 東京工業大	374
4 大阪大	183	4 大阪大	332
5 九州大	103	5 九州大	95
6 東北大	60	6 東北大	83
7 北海道大	49	7 北海道大	71

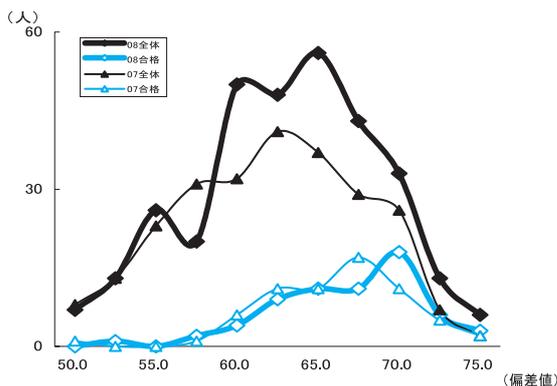
※表は東京大前期受験者の後期併願大を集計したものの(河合塾入試結果調査データより)

合塾の入試結果調査データを見ると、一橋大後期志願者のなかで**東京大**前期志願者は4割近く増加しているものの、増加分に近い数が前期合格等により後期未受験となっている。【グラフ5-1】はその一橋大の後期受験者の2次偏差値分布であるが、分布の山が全体的に小さくなっており、結果的にはやや競争が緩和された形となった。ただし、合格者のボリュームゾーンは偏差値70.0以上となっており厳しい入試であ

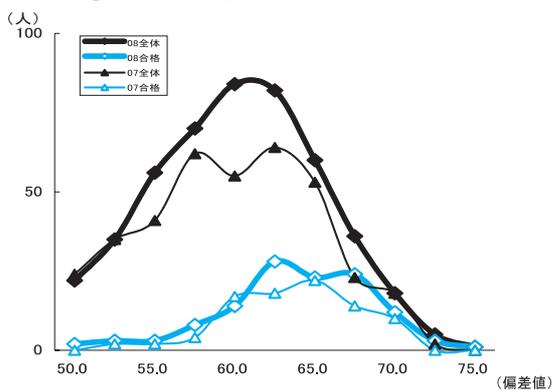
【グラフ5-1】一橋大後期 受験者の学力分布



【グラフ5-2】横浜国立大(経済)後期 受験者の学力分布



【グラフ5-3】大阪大(工)後期 受験者の学力分布



※グラフは当該大受験者の全統記述模試時の偏差値をもとに作成した学力分布 (河合塾入試結果調査データより)

ったことは間違いない。

首都圏では、一橋大や東工大を敬遠した受験生が他の国立大へと流れる玉突き現象もみられ、大幅な志願者増となった大学も多かった。【グラフ5-2】は横浜国立大(経済)後期受験者の2次偏差値分布である。受験者の山が昨年より一際高くなっていることに加え、合格者のボリュームゾーンが右にずれて偏差値70.0のところになっていることが分かる。

近畿地区で数的にも大きな変化をみせたのが大阪大であった。東京大に加え、京都大の前期志願者との結びつきも強くなり新設の外国語学部を除いても千人以上の志願者増加(前年比129%)となった。【グラフ5-3】は工学部の2次偏差値分布であるが、偏差値60.0付近で受験者の山が一際高くなっており、難化の様子が見とれる。

来春入試も後期日程の廃止・縮小は続く。一橋大では商学部が後期廃止となり、法、社会学部では後期の募集人員をそれぞれ10名に縮小する。このほか東北大(文)、京都大(医-保健)、大阪大(理-生物科学コース)、九州大(教育、医-保健)でも後期を廃止する。

均される学部系統別の人気

次に学部系統別の状況を確認しておく。各学部系統の入試結果は【表6】にまとめた。

従前の模試で人気の高かった「経済・経営・商」「工」といった系統では予想通り志願者が増えたものの、当初人気の低かった「法・政治」「医」でも志願者が増加した。同様に人気薄だった「教育(総合科学課程)」でも減少率は予想よりも小幅に留まった感がある。

国立大入試の場合、極端に人気の高い学部系統はボーダーラインも上昇し、実際の出願時には敬遠される動きもみられる。逆に不人気系統の学部でも狙い目とみられ思わぬ志願者増に結びつくこともある。

【グラフ7】はセンター試験後の自己採点集計(センター・リサーチ)時の志望から実際の出願までの志望系統の変化を調査し、各学部系統について「他系統志望者の流入率」「他系統への志望変更率」をプロットしたものである。

グラフの左下に位置する工学系や医療系は、志望変更者が少なく、かつ流入者が少ない学部系統であることから変動要素は少なく、センター・リサーチ時の志望動向通りの結果となった。

グラフの右上に位置する系統は、志望変更者が多く、かつ流入者が多い学部系統である。変動要素が多くこれらの学部系統では思わぬ難度の変化も生じやすい。特に「教育(総合科学課程)」受験者は半数以上が他系統からの志望変更となっており、最終的に他系統志望者を集めたことが分かる。

変更点が多く複雑な入試となった医学科

今春入試で、非常に複雑な入試となったのが医学科であった。「後期日程の廃止」「理科3科目化」といった変動要因に加え、政府の方針により14の国立大で定員増となり受験生の動向に大きな影響を与えた。

昨秋の模試時では、医学科志望者は常に前年の数を下回っており、近年高まりを見せていた受験生の医学科志向はやや沈静化した気配もあった。しかし、蓋を開けてみると志願者数は前年並みとなり、改めて医学科人気を感じられた次第である。

定員増に伴い、各大学では地域枠入試の導入が多く見られた。今春入試新たに見られたのが、受験者の出身地域等は特に指定せずに、卒後の地域医療従事者を条件とするような地域枠入試である。また、推薦入試やAO入試に留まらず、一般選抜でも地域枠を設定した大学もあった。

和歌山県立医科大では前期日程を一般枠(募集人員44名)と県民医療枠(同15名)に分けて募集を行った。県民医療枠は卒後の勤務地等が指定されるものであったが、志願者数は一般枠136人を上回る170人を集めた。

地域医療において医師不足は深刻であり、来春もすでに多くの大学から定員増が発表されている。既に判明分は【表8】にまとめた。いずれも緊急医師確保対策に基づくもので、その趣旨から選抜方法は地域枠入試が中心となることが予想される。医学科ではこの他にも変更点が多い。金沢大、長崎大、大阪市立大で後期日程を廃止する。岡山大と徳島大ではセンター試験理科3科目が必須となる。一方、大阪大は3科目必須を止めかつての2科目(物・化・生から2)に戻す。

2009年度入試のトピックス

最後に、2009年度入試について前述したポイントのほかに判明している情報をまとめておく。

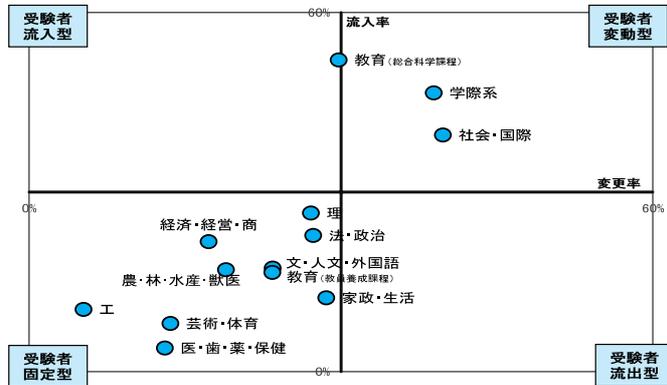
近年拡大が目立つAO入試は、来年も東北大(文)、金沢大(薬学類、創薬科学類)、信州大(理-数理・自然情報科学、農-森林科学)、九州大(教育)などで新規に実施される。一方、筑波大(国際総合学類)のように取りやめる大学も出

【表6】国公立大（前期日程）学部系統別入試結果

系統	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	07	08	07	08	前年比	07	08	前年比	07	08
文・人文・外国語	7,444	7,406	27,269	25,871	94.9%	9,220	9,138	99.1%	2.96	2.83
社会・国際	2,071	1,998	8,422	7,961	94.5%	2,795	2,623	93.8%	3.01	3.04
法・政治	3,970	4,177	14,241	14,717	103.3%	4,727	4,963	105.0%	3.01	2.97
経済・経営・商	7,873	7,937	28,847	29,450	102.1%	10,185	10,152	99.7%	2.83	2.90
教育－教員養成課程	6,649	6,697	19,206	18,872	98.3%	7,589	7,575	99.8%	2.53	2.49
教育－総合科学課程	3,103	2,877	10,364	10,050	97.0%	3,689	3,351	90.8%	2.81	3.00
理	4,874	4,953	14,253	14,139	99.2%	5,649	5,706	101.0%	2.52	2.48
工	22,076	22,076	60,505	62,821	103.8%	25,856	25,881	100.1%	2.34	2.43
農・林・水産・獣医	5,352	5,344	16,389	16,677	101.8%	6,183	6,168	99.8%	2.65	2.70
医・歯・薬・保健	9,480	9,659	38,077	37,469	98.4%	10,214	10,347	101.3%	3.73	3.62
医	2,991	3,116	17,092	17,240	100.9%	3,038	3,189	105.0%	5.63	5.41
歯	464	459	2,214	1,866	84.3%	492	489	99.4%	4.50	3.82
薬	769	785	3,023	3,020	99.9%	842	842	100.0%	3.59	3.59
看護	3,576	3,577	10,355	9,986	96.4%	3,958	3,945	99.7%	2.62	2.53
医療技術・他	1,680	1,722	5,393	5,357	99.3%	1,884	1,882	99.9%	2.86	2.85
家政・生活科学	633	637	2,215	2,221	100.3%	712	715	100.4%	3.11	3.11
芸術・体育	1,209	1,199	5,268	4,832	91.7%	1,344	1,331	99.0%	3.92	3.63
総合・環境・情報・人間	2,287	2,228	8,120	7,597	93.6%	2,906	2,797	96.2%	2.79	2.72
全体	77,021	77,188	253,176	252,677	99.8%	91,069	90,747	99.6%	2.78	2.78

※数値は河合塾調べ、学部系統の分類は河合塾による

【グラフ7】センター・リサーチから出願までの志望系統の変化



※グラフはセンター・リサーチ時の志望学部系統と実際の出願校の志望学部系統を比較し、各学部系統の「他系統志望者の流入率」「他系統への志望者変更率」をプロットしたもの（河合塾入試結果調査データより集計）

【表8】国公立大医学科
2009年度定員増予定大学（判明分）

大学名	入学定員		
	08	09	増加数
旭川医科大学	90	97	+7
札幌医科大学	105	108	+3
弘前大	90	95	+5
筑波大	95	100	+5
千葉大	95	100	+5
岐阜大	90	95	+5
島根大	85	90	+5
広島大	100	105	+5
徳島大	95	100	+5
香川大	90	95	+5
愛媛大	90	95	+5
佐賀大	95	97	+2
長崎大	95	100	+5
大分大	85	90	+5
鹿児島大	85	90	+5
琉球大	95	97	+2

※河合塾調べ（5月末現在判明分）、一部予定を含む

てきており、各大学の試行錯誤は続いている。

大学の 신설は千葉県立保健医療大（仮称）、新潟県立大（仮称）の公立2大学が予定されている。いずれも短期大学を4年制化することで誕生する。また、愛知県立大と愛知県立看護大が統合され（新）愛知県立大が誕生する。看護学部はそのままであるが、愛知県立大の学部・学科は再編される。

また、これを機に夜間主コースと3年次編入が廃止される。

このほかにも、学部・学科の新設・再編や募集区分の変更などを予定している大学がある。一部は本誌13ページ以降にまとめているほか、河合塾の入試情報サイトKei-Netでも判明分の最新の情報を掲載しているのので、是非ご活用いただきたい。

私立大学編

ここからは私立大の入試状況を見ていく。本誌4・5月号では、全国主要209大学の一般入試（二期入試および夜間主・2部除く）の志願状況を速報としてお伝えした。今号では、志願者・受験者・合格者数の集計が完了した全国493大学の入試結果をもとに、2008年度の私立大一般入試についてレポートする。

志願者数は前年を上回る センター方式での出願増による

初めに近年の私立大入試の状況を振り返っておく。私立大では18歳人口減少の影響が顕著で、2006年度までの3年間志

願者（延べ数：以降全て延べ数）減少が続いていた。しかし、昨春入試では4年ぶりに志願者は増加に転じた。ただし、志願者の集まる大学とそうでない大学との二極化はさらに進行しており、私立大志願者は都市部にある知名度の高い大学に集中する一方で、日本私立学校振興・共済事業団の調査によると約4割の私立大で定員割れを起こしているという状況であった。

今春の2008年度入試では、センター方式を含めた私立大一般入試全体の志願者は257万5千人（前年比101.4%）で、前年を約3万7千人上回っている【表9】。入試方式別の内訳では、一般方式が177万6千人（前年比98.0%）、センター方式では79万9千人（前年比110.1%）で、一般方式で減少、センター方式で増加となっている。センター試験を利用する大学・学部の増加、主要大での利用方式の複雑化などにより、受験生が出願を一般方式からセンター方式へと切り替えている様子が見えてくる。加えて今年はセンター試験の平均点が上昇したことから、センター方式の出願が一層促された。

一期・二期別に見ると、志願者は一期で前年比101.6%、二期で同99.6%となっており、二期で志願者微減となっている。昨春はセンター試験の平均点ダウンの影響で弱気になった受験生が多かったためか、最後のチャンスである二期についても志願者が増加した。今春はセンター試験の平均点が上昇し、期待通りの出願ができた受験生が多かったと推測される。このため二期まで粘り強く出願する動きは昨年ほど強くなかったと考えられる。

次に合格者数に注目すると、私立大全体では前年比97.7%と、今春入試は例年以上に合格者が絞り込まれている。これは私立大が定員超過に敏感になっていることを示す。定員超過が規定を上回る場合、私学助成金の支給対象とならないだけでなく、次年度は学部新設の認可申請ができない。昨春は法政大（デザイン工）で定員超過の基準を超え、今春新設を予定していたスポーツ健康学部の認可申請を2009年度に先送りした。経営環境が年々厳しくなる私立大にとって、私学助成金が支給されないのは大きな痛手であろう。加えて、受験生の注目が集まる学部新設の計画が後ろへずれ込むのも避けたいところであろう。

なお、今春入試で合格者数が前年より大きく減少した大学は、**近畿大**△3,712人（前年比79.5%）、**法政大**△3,025人（同82.6%）、**関西大**△1,470人（同92.0%）、**北海学園大**△1,071人（同73.6%）、**愛知工業大**△997人（同73.4%）、**関西学院大**△965人（同93.0%）などとなっている。このなかには来

年度学部新設の計画がある大学も含まれる。入学者は増やしたいが定員超過は困るという、私立大の苦悩を感じさせる。

ブランド大へ志願者集中 MARCHで志願者数躍進

【表10】は首都圏・近畿圏の主要21大学の入試結果を大学グループ別に集計したものである。グループ別の志願者数は**関関同立**で減少しているものの、そのほかは増加しており、都市部にある知名度の高い大学への根強い人気をうかがわせる。さらに、これらのグループの今春入試の志願者数は493大学計の51.4%を占めており、今春入試でも特定大に志願者が集中している様子を示す。

合格者数に注目すると、首都圏の**早慶上理**、**MARCH**ではほぼ前年並み、**日東駒専**では微増となっている。**MARCH**では今春は学部の新設で募集人員が増加しているため、実質合格者数を絞り込んだとみてよいであろう。近畿地区では**関関同立**で前年比98.0%、**産近甲龍**では同89.0%と合格者の減少比率が大きい。このように合格者の絞り込みが見られる結果、志願者が減少した**関関同立**を除き倍率（志願者数/合格者数）は各大学グループとも前年を上回り厳しい入試となった。とくに**MARCH**では5.1→5.6倍、**産近甲龍**では4.0→4.8倍と跳ね上がっている。

この主要21大学の志願者数についてももう少し詳しく見ていく。【グラフ11】は大学グループ別の志願者数の推移である。この10年間で志願者数の増加が顕著なのは**MARCH**、**関関同立**である。とりわけ**MARCH**で志願者増が著しく、直近の2年で8万人超の志願者増となっている。**MARCH**では学部新設のほかセンター方式の複雑化、地方試験の導入や複数試験日の設定といった入試改革が活発で、急激な志願者増につながっている。なお、これらの大学グループのうち**日東駒専**では志願者数がほぼ横ばいである。このグループではセンター方式の志願者数は増加しているものの、代わりに一般方式の志願者が減少しており、結果として志願者数に大きな動きがない。今春入試では1万8千人を超える志願者増となっているが、これは**日本大**で生物資源科学部などのセンター方式導入により志願者数を大きく伸ばしたためである。

【表12】は今春の一般入試における志願者数増加大学と減少大学のトップ20である（人数差順）。この表は志願者増減の絶対数を基準としており、ここに挙がるのは入試規模の大きな大学ということになる。それゆえこの表での順位が人気

【表9】私立大入試結果（一般・センター／一期・二期別）

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	06	07	08	07/06	08/07	06	07	08	07/06	08/07	06	07	08
全体	2,449,802	2,538,148	2,574,862	103.6%	101.4%	743,143	763,725	746,003	102.8%	97.7%	3.3	3.3	3.5
一般方式	1,778,198	1,812,781	1,776,131	101.9%	98.0%	517,371	517,093	477,069	99.9%	92.3%	3.4	3.5	3.7
センター方式	671,604	725,367	798,731	108.0%	110.1%	225,772	246,632	268,934	109.2%	109.0%	3.0	2.9	3.0
一期	2,292,273	2,371,629	2,408,990	103.5%	101.6%	695,484	720,519	703,214	103.6%	97.6%	3.3	3.3	3.4
二期	157,529	166,519	165,872	105.7%	99.6%	47,659	43,206	42,789	90.7%	99.0%	3.3	3.9	3.9

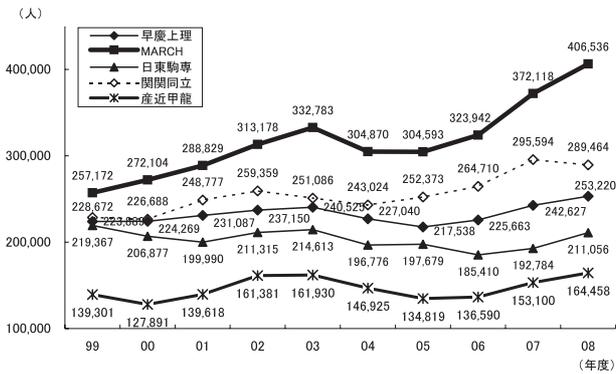
※5月22日現在 河合塾集計（493大学判明分）

※集計は2006～08年度の3年分について志願者数・合格者数を公表している大学を集計（合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く）。また2006・2007年度の数値には、2008年度に慶應義塾大と統合した共立薬科大、東海大と統合した北海道東海大、九州東海大の3大学を含む。【表10】以降も同条件で作成

【表10】私立大入試結果（大学グループ別）

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	06	07	08	07/06	08/07	06	07	08	07/06	08/07	06	07	08
493大学 計	2,449,802	2,538,148	2,574,862	103.6%	101.4%	743,143	763,725	746,003	102.8%	97.7%	3.3	3.3	3.5
下記大学計	1,136,315	1,256,223	1,324,734	110.6%	105.5%	281,869	292,055	286,623	103.6%	98.1%	4.0	4.3	4.6
早慶上理	225,663	242,627	253,220	107.5%	104.4%	49,672	50,061	50,142	100.8%	100.2%	4.5	4.8	5.1
MARCH	323,942	372,118	406,536	114.9%	109.2%	65,439	73,391	72,789	112.2%	99.2%	5.0	5.1	5.6
日東駒専	185,410	192,784	211,056	104.0%	109.5%	55,513	58,289	59,049	105.0%	101.3%	3.3	3.3	3.6
関関同立	264,710	295,594	289,464	111.7%	97.9%	72,642	71,822	70,396	98.9%	98.0%	3.6	4.1	4.1
産近甲龍	136,590	153,100	164,458	112.1%	107.4%	38,603	38,492	34,247	99.7%	89.0%	3.5	4.0	4.8

【グラフ11】主要大学グループの志願者数推移



・不人気の順位を表すものではないことを予めお断りしておく。さて、志願者増加の顔ぶれを見ると、首都圏の大学は12大学にのぼる。MARCHは青山学院大を除く4大学が顔を覗かせており（青山学院大は23位）、なかでも中央大、法政大、明治大は志願者を大きく増加させている。中央大は一般方式での地方試験拡大、経済、商学部でのセンター方式複線化などにより志願者を増加させた。法政大は工学部を再編して新設した理工、生命科学部で多くの志願者を集めた。さらに一般A方式で地方試験会場を拡大したことも志願者増加の

要因となっている。明治大は新設の国際日本学部で志願者を集めたほか、商学部ではセンター方式を複線化し志願者を増加させた。

次に志願者減少大をみる。志願者数の減少が大きい大学の中に2つのパターンを見ることができる。1つは前年に志願者を増加させた反動で志願者が減少している大学で、関西大、成城大、立命館大、龍谷大などがこれにあたる。もう1つは志願者減少が続いている大学で、千葉工業大、東京農業大、立正大などである。北海道工業大では3年で志願者が3分の1近くにまで減少している。表からは志願者減少が急速に進行している大学がある様子がうかがえる。

人気は「経済・経営・商」「理」「工」
人気系統内にも二極化が見られる

【表13】は系統別の入試結果を集計したものである。大筋はGL4・5月号でお伝えした内容と変化ないが、来春もこの傾向は大きく変わらないと予想されるので、特徴的な系統について再度取り上げておく。

文系各系統では「法・政治」系を除き、全系統で志願者数は前年を上回っている。「法・政治」系は昨春入試で前年比114.9%と多くの志願者を集めており、今春はその反動で前年を下回っている。しかし、06年度と比較すれば今春の志願者数は上回っており、系統の不人気を表しているとはいえない。「経済・経営・商」学系は2年連続の志願者増となってい

【表12】私立大志願者数増加・減少大学（人数差）

●増加した大学

大学	06	07	08	08-07	07/06	08/07
①中央	60,822	66,396	81,981	15,585	109.2%	123.5%
②日本	74,450	71,486	85,942	14,456	96.0%	120.2%
③近畿	52,833	63,662	71,127	7,465	120.5%	111.7%
④武蔵	8,876	8,317	15,419	7,102	93.7%	185.4%
⑤法政	72,051	90,216	97,017	6,801	125.2%	107.5%
⑥明治	84,526	102,451	108,946	6,495	121.2%	106.3%
⑦慶應義塾	46,328	47,697	53,316	5,619	103.0%	111.8%
⑧東京理科	44,530	45,286	50,856	5,570	101.7%	112.3%
⑨京都産業	20,145	21,947	26,239	4,292	108.9%	119.6%
⑩武蔵野美術	7,091	6,996	11,047	4,051	98.7%	157.9%
⑪名城	20,800	23,627	27,628	4,001	113.6%	116.9%
⑫同志社	43,011	46,315	50,218	3,903	107.7%	108.4%
⑬立教	58,714	67,505	71,382	3,877	115.0%	105.7%
⑭芝浦工業	18,787	20,104	23,965	3,861	107.0%	119.2%
⑮駒澤	30,009	29,249	32,691	3,442	97.5%	111.8%
⑯中京	20,905	19,408	22,503	3,095	92.8%	115.9%
⑰成蹊	20,852	20,638	23,619	2,981	99.0%	114.4%
⑱甲南	24,571	26,369	28,847	2,478	107.3%	109.4%
⑲摂南	7,455	5,762	8,130	2,368	77.3%	141.1%
⑳西南学院	14,143	14,749	16,937	2,188	104.3%	114.8%

●減少した大学

大学	06	07	08	08-07	07/06	08/07
①関西	82,949	101,410	93,672	-7,738	122.3%	92.4%
②武蔵野	16,247	16,473	12,522	-3,951	101.4%	76.0%
③成城	16,083	20,052	16,587	-3,465	124.7%	82.7%
④立命館	93,546	98,761	95,597	-3,164	105.6%	96.8%
⑤亜細亜	8,739	10,668	7,555	-3,113	122.1%	70.8%
⑥龍谷	39,041	41,122	38,245	-2,877	105.3%	93.0%
⑦千葉工業	18,085	12,660	9,877	-2,783	70.0%	78.0%
⑧佛教	11,115	10,973	8,464	-2,509	98.7%	77.1%
⑨創価	14,974	16,661	14,156	-2,505	111.3%	85.0%
⑩東京農業	28,094	24,947	22,720	-2,227	88.8%	91.1%
⑪國學院	15,218	17,487	15,312	-2,175	114.9%	87.6%
⑫明治学院	27,648	31,070	29,238	-1,832	112.4%	94.1%
⑬立正	15,514	12,520	10,957	-1,563	80.7%	87.5%
⑭神奈川	24,000	23,011	21,575	-1,436	95.9%	93.8%
⑮桜美林	6,580	7,539	6,155	-1,384	114.6%	81.6%
⑯関東学院	8,992	9,173	7,818	-1,355	102.0%	85.2%
⑰玉川	11,144	9,370	8,036	-1,334	84.1%	85.8%
⑱東京電機	12,551	13,589	12,307	-1,282	108.3%	90.6%
⑲東京工科	6,851	6,820	5,610	-1,210	99.5%	82.3%
⑳北海道工業	3,012	2,279	1,101	-1,178	75.7%	48.3%

【表13】私立大入試結果（学部系統別）

系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	06	07	08	07/06	08/07	06	07	08	07/06	08/07	06	07	08
文・人文・外国語	492,837	513,905	522,668	104.3%	101.7%	150,098	156,311	158,754	104.1%	101.6%	3.3	3.3	3.3
社会・国際	238,810	241,465	243,525	101.1%	100.9%	68,777	69,274	65,120	100.7%	94.0%	3.5	3.5	3.7
法・政治	220,135	252,868	247,075	114.9%	97.7%	65,667	67,533	66,226	102.8%	98.1%	3.4	3.7	3.7
経済・経営・商	532,547	563,072	584,886	105.7%	103.9%	140,209	141,172	138,506	100.7%	98.1%	3.8	4.0	4.2
理	85,487	89,421	96,712	104.6%	108.2%	34,688	36,841	36,626	106.2%	99.4%	2.5	2.4	2.6
工	340,292	343,523	352,845	100.9%	102.7%	140,961	142,306	128,548	101.0%	90.3%	2.4	2.4	2.7
農・林・水産・獣医	71,593	68,421	67,527	95.6%	98.7%	19,589	21,527	22,032	109.9%	102.3%	3.7	3.2	3.1
医・歯・薬・保健	218,251	209,965	204,757	96.2%	97.5%	46,947	50,834	51,322	108.3%	101.0%	4.6	4.1	4.0
家政・生活科学	67,433	66,500	62,053	98.6%	93.3%	21,229	21,758	21,709	102.5%	99.8%	3.2	3.1	2.9
芸術・体育	82,321	83,452	84,555	101.4%	101.3%	22,095	23,957	24,752	108.4%	103.3%	3.7	3.5	3.4
総合・環境・情報・人間	99,722	105,208	107,945	105.5%	102.6%	32,520	31,871	32,109	98.0%	100.7%	3.1	3.3	3.4
全体	2,449,428	2,537,800	2,574,548	103.6%	101.4%	742,780	763,384	745,704	102.8%	97.7%	3.3	3.3	3.5

※大学計で入試結果を公表している大学は上表には含まない

る。この系統は国公立大でも志願者が増加しており、堅調な人気ぶりを示している。中央大や明治大での志願者増の影響が大きい。「社会・国際」系は前年並みの志願者を集めているが、詳細分野をみると「社会福祉」の志願者は前年を約2割下回っている。一方で「社会」「国際経済」といった分野では社会科学系人気の追い風を受けており、志願者は増加している。

理系各系統では「理」「工」学系の志願者が前年を上回る。「理」学系では「化学」「工」学系では「機械・航空」「応用化学」「生物工」といった分野で志願者が大きく増加している。「化学」「生物工」分野での志願者増は、生命科学系の学部・学科の新設の影響である。なお、理工系は全体としては人気系統といえるが、大学間の格差は広がりつつある。都市部と地方の大学の格差は指摘されて久しいが、都市部の大学間でも差が広がりつつある。【表14】は首都圏に位置する工学系の主な大学の志願者数である。青山学院大、芝浦工業大、上智大、中央大、東京理科大、明治大などで志願者が増加している。このうち芝浦工業大、中央大、東京理科大ではセンター方式で大きく志願者数を伸ばしており、国公立大の後期日程廃止も追い風となっているようである。一方で、志願者が大きく減少している大学も目につく。東京工芸大、湘南工科大では3年間で志願者が半数以下まで減少している。さきほど志願者数の減少が続いている大学として取り上げた千葉工業大では、今春センター型に新方式を導入、工・情報科学部では一般B日程を2教科に減らすなどしたが志願者減少に歯止めがかからなかった。首都圏は人口が多いという点で他地区に比べ恵まれているが、その首都圏でも二極化と無縁ではない。同時に入試改革が即志願者増につながらない大学もあり、地方同様に厳しい状況におかれていることがわかる。

「医・歯・薬・保健」系では、「看護」分野で志願者増、「医」「薬」分野では前年並み、「歯」「医療技術」分野で志願者減少と分野により傾向が異なる。このうち唯一志願者が増加している「看護」は大学・学部の新増設により募集人員も増加しているため、志願者は分散して倍率（志／合）は前年より低下、全体としては易化傾向にある。志願者が減少した分野のうち「歯」では前年比83.7%と国公立大同様に大きく減少している。なお、「薬」では前年並みの志願者数といっても立命館大（薬）の新設の影響でこの数値となっているのであり、多くの大学では志願者減少が続く。倍率（志／

合）に目を向けると地方では1倍台の大学も散見され、薬剤師養成課程6年制化以降の人気低迷に歯止めがかかったとはいえない。ただし立命館大のほか、慶應義塾大、東京理科大といった大学では志願者を集めており、ここでも二極化の様相を見せている。「家政・生活科学」系では「児童」分野が2年連続で志願者を減らしている。「児童」分野は今春も学部・学科の新設が相次いだため、倍率（志／合）は大きく下がっている。

2008年度の私立大一般入試はほぼ前年並みの志願者を集めた。18歳人口減により受験人口は減少しているものと予想され、それにもかかわらず私立大入試の志願者数が減少しないのは、受験生1人当たりの受験校数がセンター方式を中心に増加しているためと考えられる。これは人気のある首都圏の主要大を中心にセンター方式の複線化が進んでいる影響が大きい。来春入試でも特定大への志願者の集中とともに、一般方式からセンター方式へのシフトが進行すると考えられる。一方で定員割れを起こしている大学が2007年度入試時点で既に4割に達していることから、ブランド力の低い大学では全入時代に突入しているといえる。多くの私立大にとって厳しい時代が到来しているが、それゆえに大学の選択も一層慎重になるべきであろう。

2009年度も数多くの大学・学部の新設がすでに公になっている。入試方式等の変更もこれから夏にかけて徐々に明らかになっていく。今回は本誌10月号にて2009年度入試の最新動向をお伝えする。

【表14】首都圏主要私立大 工学系学部志願者数

大学	学部	志願者					倍率（志／合）		
		06	07	08	07/06	08/07	06	07	08
千葉工業	工	13,171	9,091	6,932	69.0%	76.3%	2.7	2.0	1.8
	情報科学	2,032	1,584	1,299	78.0%	82.0%	4.6	3.1	3.0
	社会システム科	628	363	288	57.8%	79.3%	1.9	1.2	2.3
青山学院	理工	5,923	6,835	7,292	115.4%	106.7%	3.3	3.2	3.4
慶應義塾	理工	8,513	8,687	8,932	102.0%	102.8%	3.2	3.4	3.6
工学院	工	7,094	5,826	5,566	82.1%	95.5%	2.4	2.1	2.1
	先-軌道工学	295	184	169	62.4%	91.8%	2.0	1.4	1.3
国士館	理工		980	722		73.7%		1.7	1.2
	工	1,095					1.5		
芝浦工業	工	16,292	16,579	19,520	101.8%	117.7%	2.9	2.8	3.2
	システム工	2,495	3,525	4,445	141.3%	126.1%	2.4	2.8	2.8
上智	理工	3,755	4,021	5,125	107.1%	127.5%	3.1	3.4	4.9
成蹊	理工	3,578	3,319	4,322	92.8%	130.2%	3.5	3.2	3.8
創価	工	1,368	1,520	1,398	111.1%	92.0%	5.0	4.1	4.0
拓殖	工	1,188	999	780	84.1%	78.1%	1.5	1.7	1.6
玉川	工	752	478	506	63.6%	105.9%	2.5	1.6	1.7
中央	理工	14,366	14,443	16,140	100.5%	111.7%	3.9	4.1	4.3
東海	工	5,299	4,797	4,411	90.5%	92.0%	2.9	2.6	2.3
	情報理工	1,659	1,473	529	88.8%	35.9%	2.3	2.2	2.3
東京工科	コンピュータ工学	1,963	1,768	1,707	90.1%	96.5%	2.8	2.2	1.5
東京電機	理工	3,640	2,689	2,587	73.9%	96.2%	2.0	1.7	1.9
	未来科学		3,785	2,963		78.3%		3.4	3.4
	工	8,029	5,734	5,679	71.4%	99.0%	3.1	2.3	2.7
東京理科	理工	16,296	16,121	17,446	98.9%	108.2%	2.5	2.3	2.6
	工	8,433	9,035	10,853	107.1%	120.1%	3.3	3.2	4.1
	基礎工	2,360	2,551	2,834	108.1%	111.1%	2.3	2.2	2.2
東洋	工	6,384	5,892	5,315	92.3%	90.2%	1.8	1.5	1.8
日本	理工	12,519	11,023	12,351	88.1%	112.0%	3.2	2.6	3.0
	生産工	4,284	4,330	3,725	101.1%	86.0%	1.8	2.2	1.7
法政	工	10,893	10,764		98.8%		3.5	3.4	
	理工			9,491					5.2
	生命科学			4,175					4.9
	デザイン工		6,247	6,392		102.3%		5.9	9.4
武蔵工業	工	9,898	7,986	7,776	80.7%	97.4%	3.0	3.2	3.0
	知識工		2,191	2,194		100.1%		2.6	2.6
明治	理工	14,225	17,390	17,902	122.2%	102.9%	3.1	3.5	4.0
早稲田	理工	13,531						3.1	
	先進理工		6,637	6,037		91.0%		4.6	3.6
	基幹理工		4,163	3,893		93.5%		4.0	4.0
	創造理工		4,214	4,414		104.7%		3.7	4.3
東京工芸	工	1,036	681	478	65.7%	70.2%	2.0	1.2	1.1
神奈川工	工	1,200	1,100	955	91.7%	86.8%	1.3	1.3	1.3
	創造工	664	572	520	86.1%	90.9%	2.3	1.8	1.5
神奈川	工	4,827	4,271	3,872	88.5%	90.7%	2.6	2.5	2.3
関東学院	工	1,433	1,074	917	74.9%	85.4%	2.6	1.6	1.8
湘南工科	工	1,132	985	480	87.0%	48.7%	1.7	1.3	1.5